

主題：キリストを経験し、享受し、表現する

メッセージ 52

啓示録において (1)

イエスの証しのための神の忠信な証人

聖書：啓 1:1-2, 5, 9-12; 7:9-17; 19:10

- I. キリストは忠信な証人、すなわち神の証した表現です。彼が神を表現することは、
彼が証しすることです——啓1:5. 3:14 :
- A. キリストは、神の証人、すなわち神の証した表現です。召会は、キリストの証した表現です。そのようなものとして、召会はキリストにある神の証した表現の複製です—— 1:5。
- B. 啓示録は、啓示されたキリストと証しする召会、すなわちイエスの証しをわたしたちに提示しています。キリストは神の証しであり、召会はイエスの証し、すなわち三一の神の団体の表現である拡大されたキリストです——ヨハネ 1:18. 5:31-37. 8:14. 啓 1:2, 5, 9. 19:10. 参照、創 1:26。
- II. イエスの証しは七つの金の燭台です。それは性質において金（神聖）であり、暗やみの中で輝き、互いに同一です——啓1:1-2, 9-12 :
- A. 金の燭台は三一の神を象徴します。実質としての御父は御子の中で具体化され、具体化としての御子はその霊を通して表現され、その霊は諸召会として完全に実際化され、表現され、諸召会はイエスの証しです——出 25:31-40. ゼカリヤ 4:2-10. 啓 1:10-12。
- B. イエスの証し、すなわちイエスの団体の表現（使徒 9:4-5. I コリント 12:12）としての金の燭台を経験するために、わたしたちは兄弟またイエスにある患難と王国と忍耐とに共にあずかっている者として（啓 1:9-10）、絶えず主イエスの御名を呼び求めることによって（I コリント 12:13. ローマ 10:12-13. 哀 3:55-56）、イエスの霊（使徒 16:7）で満たされ、イエスの焼き印を帯びなければなりません（ガラテヤ 6:17）。
- C. 金を打って台を形成することは、信者たちがキリストの苦難にあずかることを表徴します。わたしたちの環境において起こるすべてのことは、打ち物作りの燭台を生み出すためです——出 25:31. コロサイ 1:24 :
1. わたしたちが神を知ろうと決意し、その霊の内側の働きと外側の環境に服従するならば、あらゆる境遇はわたしたちが彼を知る機会となります——ホセア 6:1-3. ピリピ 3:10 前半. エペソ 6:20. 参照、創 41:42。
 2. 人が一生において神を知らないなら、全生涯を無駄にしてしまいます。どうか主がわたしたちに境遇における彼の取り扱いを進んで受け入れさせ、それによってわたしたちに彼をさらに知らせますように——II コリント 4:16-18. 12:7-9. 参照、イザヤ 7:14-15. II コリント 5:14-15。
 3. 事柄の核心とは、人が困難や試練のただ中で偉大な光としての主に出会うかどうか

かです。苦難はわたしたちが他の方法で理解することができなかったことを理解させます—— 1:8-9. 参照、エペソ 1:17. ルカ 1:78-79。

- D. 金の燭台の輝きは、人々が彼らの間を歩く人の子である栄光のキリストについてのビジョンを見るためです。わたしたちは、永遠にわたって生きている方として諸召会の間にいる主を知ることによって、いつもわたしたちの霊の中で彼の臨在を確信することができます。彼はいつも生きていて、わたしたちのためにとりなし、今わたしたちのために神の御顔の前に現れ、決してわたしたちを失望させたり、放棄したりしません——啓 1:12-18. 2:1. IIテモテ 4:22. ヘブル 7:25. 9:24. 民 6:22-27. 申 31:6。
- E. 金の燭台の七つのともし火が輝くこと、主イエスが火の炎のような七つの目をもって彼らの間を歩くこと、彼の足が輝く青銅のようであること、彼の御顔が太陽のように輝くことは示していますが、わたしたちは日常生活において、また召会生活において、日ごとにますます主の輝きを必要とするのは、さらに多くの彼の牧養、すなわち救い、回復し、復興し、神化することのためです——啓 1:14 後半-15 前半, 16 後半. 4:5. 5:6. ルカ 1:78-79. IIコリント 4:6-7. マラキ 4:2. 箴 4:18. 詩第 22 篇、タイトル. 80:1, 3, 7, 15-19 :
1. 光は神の言葉の中にあります。それは聖書の書かれた文字ではなく、その霊が内側からわたしたちに語る言葉であり、聖書の言葉をわたしたちに新たに啓示します——啓 2:7 前半. 詩 119:105, 130. ヨハネ 6:63. エペソ 5:26-27. 雅 8:13-14. イザヤ 66:2, 5。
 2. 照らすことは神のあわれみにかかっています。神が来てご自身のあわれみをわたしたちに与えるときはいつでも、彼の御顔の光はわたしたちの光であり、彼の現れはわたしたちのビジョンであり、彼の臨在はわたしたちの益です——ローマ 9:15. 使徒 9:3-4. イザヤ 50:10-11. 民 6:25-26。
 3. 照らされるために、わたしたちは主の輝きを欲し受け入れ、わたしたちの心を単一にして、わたしたちの願いを尽くして主だけを追い求めなければなりません——詩 139:23-24. ピリピ 2:12-16. 歴代下 12:14. 16:12. 34:1-3. 詩 27:8. 73:25. ルカ 11:33-36。
 4. 照らされるために、わたしたちは自分自身を主に開き、心を彼に向け、どんな保留や自制もなく彼の御前に自分自身を置かなければなりません。主に対して自分自身を閉じる者たちは、他の人たちを裁き批判する専門家です——IIコリント 3:16. 箴 20:27. マタイ 7:1-5. ルカ 6:36-37, 41-42。
 5. 照らされるために、わたしたちは自分自身を停止しなければなりません。これが意味するのは、わたしたちの展望、物事の見方、感覚、考え、意見を停止することです。完全に停止している人が主の御前に来るとき、主の言葉を受け取ることにおいて極めて単純で単一になることができます—— 10:38-42. ヨハネ 11:21-28. イザヤ 40:31. マタイ 5:3; ルカ 18:15-17. イザヤ 66:1-2。
 6. 照らされるために、わたしたちは、わたしたちの内側で語るその霊の光や、外側で語るその霊の奉仕者たちと論争してはなりません——使徒 22:10. 雅 5:4-6. IIコリント 10:3-5. 11:2-3. 民 16:1-7, 31-39. 17:1-8. 参照、出 33:11, 14。

7. 照らされるために、わたしたちは継続的に光の中で生きなければなりません——イザヤ 2:5. I ヨハネ 1:7. ヘブル 9:14. 10:22. マタイ 5:3, 8, 14. 詩 119:105. 啓 1:20. 詩 36:8-9.

Ⅲ. イエスの証しは、宮の中で神に仕える大群衆、すなわち神の贖われた者たちから成るからだ全体です。彼らは天に携え上げられて、天上にある、またキリストの中にあるすべての霊の祝福を伴う神の顧みと小羊の牧養を享受します。それは今日、享受することができます——啓7:9-17. エペソ1:3. ガラテヤ3:14. 創12:2. 参照、啓21:3-4. 22:3-5. イザヤ49:10 :

A. 大群衆は、あらゆる国民、部族、人々、言語から小羊の血をもって買い取られた人々たちから成っており、召会の構成要素となります——啓 7:9 前半. 5:9. ローマ 11:25. 使徒 15:14, 19. I コリント 6:19-20.

B. 「これらは大きな患難から出て来た人たちであって、彼らの衣服を小羊の血で洗い、白くしたのである」——啓 7:14 :

1. この大患難は、各時代を通して神の贖われた民が経験した患難、苦難、迫害、苦悩を指しています——ヨハネ 16:33。
2. 小羊の血は、神の御前でわたしたちに対する悪魔のすべての訴えに答え、彼に対する勝利をわたしたちに与えます (啓 12:11)。わたしたちのすべての罪と汚れのために開かれた血の源泉としての贖うキリストのゆえに (ゼカリヤ 13:1. ヨハネ 19:34)、わたしたちはこの血に浸り、全身の罪を除き去ることができます (詩歌、686 番, 1 節)。そして「立ち上がって神ご自身の光の中に歩き、この世と罪から離れ、心は新しくされ、衣服は白くされ、キリストは内側に座しています」(詩歌 1010 番, 3 節、英文)。
3. わたしたちの衣服を洗うことは、小羊の血の洗いを通してわたしたちの振る舞いを清く保つことです。このことは、命を木を享受し神の永遠の祝福の領域としての命の都の中へと入る権利をわたしたちに与えます。—— I ヨハネ 1:7. 啓 22:14。

C. 大群衆の人たちはしゅろの枝を手にして、御座と小羊の前に立っています—— 7:9 後半 :

1. しゅろの枝は、わたしたちが主のために受けてきた患難に対して勝利を得ることを表徴します。しゅろの木はまた水が注がれることを通して得られた満足のしるしでもあります—— 14 節. 参照、ヨハネ 12:13. 出 15:27。
2. 神の宮としての三一の神の中で、わたしたちは昼も夜も彼に仕え、彼を永遠の仮庵の祭りとして享受し、しゅろの木のように命において繁栄します——啓 7:15 前半. 3:12. レビ 23:20. ネヘミヤ 8:15. 詩 92:12-13. ヨハネ 7:2. 37-38. ローマ 1:9. コロサイ 2:19。
3. わたしたちの今日の時間における奉仕は、永遠におけるわたしたちの奉仕の準備のためです。時間における神の唯一の目標は、日ごとにご自身をわたしたちの中へと分与することです。神がわたしたちの中へと入って来て、わたしたちから出るとき、それが奉仕です——マタイ 25:19-23. ヨハネ 7:37-39。

D. わたしたちはもはや飢えることも、渴くこともありません——啓 7:16 前半 :

1. 飢え渴くことは、まだ満足していない望みを持つことです。キリストが約束した

のは、彼の中へと信じるすべての者が満足し、彼を満足させる命として受け入れることです——ヨハネ 6:35。

2. わたしたちの霊の中で霊なる神と接触することは、生ける水から飲むことであり、生ける水から飲むことは、神に真の礼拝をささげることです—— 4:13-14, 23-24。

E. 照りつける太陽や焼けるような熱もわたしたちを打つことはありません——啓 7:16 後半：

1. 御座に座している小羊・神はわたしたちの上に幕屋を張り、ご自身をもってわたしたちを覆います—— 15 節後半. II コリント 12:9。

2. 神のおおいの下にある一種類の生活があります。それは神の中に隠されている生活です——詩 36:7-9. エペソ 6:17. 詩 91:1. 17:8. 57:1. ルツ 2:12。

3. エホバとしてまた人としてのキリストは、神の民を供給し、顧み、覆う王です。彼は支配するための王であり、風を避ける避け所、暴風を避けるおおいのような、乾いた所にある水の流れのような、荒廃した地にある大きな岩の影のような人です——イザヤ 32:1-2。

F. 御座の中央にいる小羊はわたしたちを牧養し、わたしたちを命の水の泉に導いてくださいます——啓 7:17 前半：

1. 牧養は養うことを含みます。キリストの牧養の下で、「わたしには欠けるものはありません」——詩 23:1。

2. わたしたちは決して自分自身を改善することはできません。わたしたちはいつもわたしたちを養う牧者を必要とします。彼は神の小羊として御座におられ、神の家の中で、神の家のためにご自身の経験をもって小羊を養います—— 2-6 節. 啓 22:1。

G. 彼はわたしたちの目から涙をことごとくぬぐい取ってくださいます—— 7:17 後半：

1. 涙はこの時代において避けることはできませんが、わたしたちの涙は神の皮袋の中へと入れられ、彼の書に記録されます——ヘブル 5:7. 使徒 20:19, 31. 詩 56:8. 参照、マラキ 3:16。

2. 小羊は命の水をもってわたしたちに供給し、わたしたちを満足させるので、涙の水はぬぐい去られます——エレミヤ 9:1. 2:13. 参照、15:16. 哀 3:21-25, 55-56。

3. 神に感謝します。悲しみの日々や悲しい事柄は存続しません。この世は過ぎ去りつつあり、わたしたちは祝福されて流れる三一の神から飲み、永遠の命の総合計、すなわち新エルサレムとなるに至ります——ヨハネ 4:14 後半。